

文/谷合伸介(横須賀市立中央図書館 郷土資料室)

鎌倉時代、鎌倉には多くの御家人が邸宅を構えていま した。しかし、全ての御家人が鎌倉に邸宅を持てたわけ ではなく、自らの本拠地にしか無かった者もいれば、鎌 倉に有していても、所用時の宿所として利用するだけの 者もいました。常に鎌倉で暮らしていた御家人は、いわ ば鎌倉幕府の政治の中枢に関わる有力御家人であり、三 浦一族はまさにこれにあたる存在でした。

三浦宗家の邸宅に関する史料は、まず『吾妻鏡』文治 3年(1187)2月25日条にあり、この日、源頼朝は三

浦義澄の邸宅を訪れ、酒宴を行いま した。その際、同邸宅には、信濃国 保科宿(現長野市)の遊女の頭が寄 宿しており、それは訴訟のためで あったと記されています。訴訟によ り、寄宿していたという状況からみ て、記事にある義澄邸は本拠地の三 浦ではなく鎌倉とみられます。この ように、文治3年という比較的早い 段階で、義澄は鎌倉に邸宅を有して いたとみられますが、その4年後の 建久2年(1191)閏12月7日、新 たな邸宅を構えます。義澄は、この 新邸に頼朝を招いて歓待し、子の義 村や景連(佐原義連の子)らが集め られ、相撲が行われました。義澄の 邸宅について、これ以上の詳細は分 かりませんが、少なくとも義澄の代 には、すでに三浦宗家は鎌倉に邸宅 を構えていた様子が窺えます。

一方、義澄の子、義村の邸宅に関しては、より具体的 なことが見えてきます。建保7年(1219)正月、鶴岡 八幡宮で3代将軍源実朝が甥の公暁によって殺害される という事件が起こります。この時、義村は執権北条義時 の命により討手を差し向け、自身の邸宅に向かっていた 公暁を討ち取ります。『吾妻鏡』によれば、公暁は鶴岡 八幡宮後方の峰を登り義村邸に向かっていたと記されて おり、少なくとも義村邸は鶴岡八幡宮の近隣にあったこ とが読み取れます。そのうえで、貞応3年(1224)9月 5日の『吾妻鏡』には、義村邸が火災に遭い、西御門の 邸宅が焼失したと記されていることから、その場所は源 氏3代が幕府をおいた大蔵御所の西側(現在の横浜国立 大学付属小・中学校付近)に位置していたことがわかり ます。その後、邸宅は再建されたようですが、嘉禎4年 (1238) 正月、再び火災に遭います。ここで、注目し

たいのは、この時、火災に巻き込まれたのが、義村邸だ けでなく、後藤基綱(御家人)や三浦泰村(義村の子) の邸宅も含まれていたと『吾妻鏡』に記されている点で す。つまり、この時、義村と子の泰村は、近接するもの の、別々に邸宅を構えており、その場所は西御門だった ことがわかるのです。

では、その邸宅の敷地内は具体的にどのようなもの だったのでしょうか。詳細は不明ですが、三浦宗家が滅 亡することとなる宝治合戦直前の出来事の中で幾つか見

> えてくる部分があります。宝治元年 (1247) 6月1日、執権北条時頼 は、事前に武具を整えているとの情

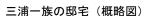
とみられます。その後、宝治合戦が

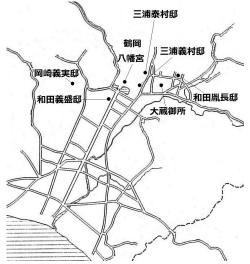
報を得ていた泰村邸に使者を送りま した。泰村邸に赴いた使者は、武士 の詰所に着座し、取り次ぎを頼みま す。このことから、泰村邸にはそう した間が設けられていたことがわか ります。さらに、時頼の使者は内部 の様子を自らの郎従にも探らせ、 「厩侍」(うまやさぶらい)に約120~ 130の鎧唐櫃(よろいからびつ)が集め られているとの情報を得ます。「廐 侍」は、厩におかれた下級武士の詰 所を意味します。その後、しばらく して、この使者は泰村から「出居」 (でい)に招かれます。「出居」は、邸 宅の主人の居間兼客間を指すことか ら、こうした間取りも含まれていた

勃発する6月5日の『吾妻鏡』には、一旦は時頼との和平 案がまとまり、安堵する泰村に妻が湯漬けを差し出した という記事がみえます。食事を妻が用意している状況か ら、同邸宅内に炊事場があったことも窺えます。以上、 『吾妻鏡』の記事を探ると、西御門の泰村邸には、少な くともこのような間が設けられていた可能性が考えられ ます。

ここまで西御門の義村邸及び泰村邸をみてきました が、大蔵御所の反対側の東御門には、和田合戦以前、和 田義盛の甥の胤長が邸宅を構えていました。このよう に、三浦一族は大蔵御所に近接する東西に邸宅を構え、 鎌倉殿を支えていました。こうした点からも、幕府内に おける同一族の立場を窺うことができます。

参考文献:高橋慎一朗『中世鎌倉のまちづくり 災害・交 通•境界』(吉川弘文館、2019年)





『新版 全譯 吾妻鏡 別巻』(新人物往来社、 2011年)の「吾妻鏡鎌倉地図(2)」を参照し、 『鎌倉市史 総説編』 (鎌倉市、1959年) 191頁の